

緩和ケアの奥義を極める

『トワイクロス先生の緩和ケア
QOLを高める症状マネジメントと
エンドオブライフ・ケア』

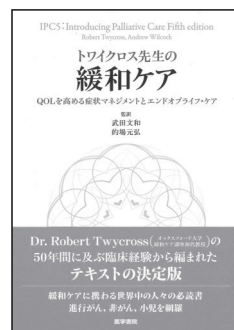
Robert Twycross, Andrew Wilcock (編)
武田文和, 的場元弘 (監訳)

評者：恒藤 暁 京大病院緩和医療科長

オックスフォード大緩和ケア講座の初代主任教授であったトワイクロス先生が1984年に執筆し、武田文和先生が翻訳された『末期癌患者の診療マニュアル』（医学書院、1987）が出版されてから30年以上が経過した。当時、緩和ケアの実践に関する日本語の書物はほとんどなく、貪るように読んで診療に当たったことを思い出す。過去30年においてわが国での緩和ケアの知識と技術の普及には目覚ましいものがあるが、患者に対する心構えについての教示を受ける機会は乏しく、物足りなさを感じていたところに本書が世に出たことは時宜にかなっていると感じる。

トワイクロス先生はセント・クリストファー・ホスピスの研究所の所長として招聘され、がん患者の痛みの治療法などの研究に励み、その後、「WHO方式がん疼痛治療法」（1986年）の作成会議の専門家委員として中心的な働きをされた。監訳者のお一人である武田文和先生

●A5/頁440/2018年
定価：本体3,400円＋税
[ISBN978-4-260-03550-7]
医学書院 刊



とは、それ以来の深い親交があり、お二人は「WHO方式がん疼痛治療法」の普及活動と医療麻薬の管理規制の改善に取り組まれている。本書は、トワイクロス先生の50年にわたる緩和ケアの臨床・研究・教育の経験を通して得られた英知の集大成といえるであろう。

本書を通して、緩和ケアの概要、倫理、コミュニケーション、心理的ケア、スピリチュアルケア、死別ケア、症状マネジメント、緊急事態、アドバンス・ケア・プランニング、エンドオブライフ・ケア、小児緩和ケア、非がん疾患（循環器疾患、呼吸器疾患、神経疾患）のケア、医学教育カリキュラム、エッセンシャルドラッグなどの緩和ケアにおける不可欠な領域を見渡すことが可能である。

緩和ケア従事者だけでなく、全ての医療従事者が本書を手にして、トワイクロス先生の緩和ケアの奥義を極めていただきたいと心から願っている。